

1. 授業評価の実施状況

- ・評価項目：アンケートを添付資料の表1に示す。
- ・実施科目数：121科目
- ・回収率：平均95.0%

2. 対象と方法

対象は、島根リハビリテーション学院に在籍する1～3年生両学科111名（令和7年度3月末在籍数）とした。

調査を行う科目は、理学療法学科と作業療法学科の学生が共通して受講する共通科目、理学療法学科の学生のみが受講するPT科目、作業療法学科の学生のみが受講するOT科目の3つに分類した。

対象者には事前に、個人を特定されない配慮とアンケート結果が成績に反映されない事を説明した上で実施した。アンケートの実施は、最終授業終了後にアンケート回答サイトのWebリンクから回答を行わせた。

アンケートは、「学生の姿勢」と「授業に対する評価」の2項目に分かれ、「学生の姿勢」の質問文数が5つ、「授業に対する評価」の質問文数が15である。（表1）。学生には各項目の質問文に対して、5段階のリッカート尺度（5点：そう思う、4点：ややそう思う、3点：どちらでもない、2点：あまりそう思わない、1点：そう思わない）のうちもっとも当てはまるものを選択させた。得点は、質問文ごとの平均点と項目ごとの平均点を算出することで得られ、最低点は1点、最高点は5点であり、得点が高いほど学生による授業評価が高いことを示す。

3. 学生による授業評価結果

結果を添付資料の表2～15に示す。

4. 結果

1) 学生の姿勢

(1) 共通・専門科目の結果（表2）

令和7年度の「学生の姿勢」の平均得点のうち、4.0点未満を示したのは、共通科目であった。PT科目とOT科目の得点は、中央値の3点よりも高い4.0点以上であった。

(2) 学年別の共通・専門科目の結果（表3）

令和7年度1年生に実施された共通科目、PT科目、OT科目における「学生の姿勢」の平均得点のうち、4.0点未満を示したのは、共通科目とPT科目であった。

令和7年度2年生に実施された共通科目、PT科目、OT科目における「学生の姿勢」の平均得点は、中央値よりも高い4点以上であった。

令和7年度3年生に実施された共通科目、PT科目、OT科目における「学生の姿勢」の平均得点のうち、4.0点未満を示した科目は、共通科目であった。

2) 授業に対する評価

(1) 共通・専門科目の結果 (表 2)

令和 7 年度に実施された共通科目、PT 科目、OT 科目における「授業に対する評価」の平均得点のうち、4.0 点未満の科目は無かった。令和 7 年度の「授業に対する評価」の平均得点は、中央値の 3 点よりも高い 4.0 点以上であった。加えて、PT 科目、OT 科目は、4.5 点以上であった。

(2) 学年別の共通・専門科目の結果 (表 3)

令和 7 年度 1～3 年生に実施された共通科目、PT 科目、OT 科目において「授業に対する評価」の平均得点が 4.0 点未満の科目はなかった。また、1 年生の OT 科目、2 年生の PT 科目と OT 科目、3 年生の共通科目、PT 科目、OT 科目が 4.5 点以上を示した。

5. 考察

令和 7 年度に実施された科目のうち「学生の姿勢」の平均得点が、4.0 未満を示したのは、共通科目であった (表 2)。また、1 年生では共通科目と PT 科目が 4.0 未満を示し、3 年生では共通科目のみ 4.0 未満であった。2 年生では 4.0 点未満の科目はなかった (表 3)。

表 2 の「学生の姿勢」の質問項目ごとの得点を見ると、共通科目では、問 1「あなたは予習をして授業に臨みましたか」が 3.40 点で前年度と比較して 0.13 点高かった。また、問 2「あなたは復習をして授業に臨みましたか」が 3.58 点で前年度と比較して 0.13 点高かった。加えて、問 3「あなたは意欲的に質問や発言をしようと思いましたか」が 4.05 点で前年度と比較して 0.12 点高くかつ 4.0 点以上に向上していた。PT 科目は、問 1 が 3.55 点、問 2 が 3.70 点と 4.0 未満であり、前年度と比較して横ばいである。OT 科目は問 1 が 3.76 点、問 2 が 3.89 点と 4.0 未満であるが、前年度よりも約 0.10 点高かった。

令和 6 年度の授業評価結果で課題として挙げていたこれらの質問項目の得点の向上が見られたのは、各授業担当教員が改善活動を行った結果であると考えられる。具体的には、復習や予習の経験を積むことができる反転授業や PBL、ジグソーなどアクティブラーニングの手法の導入や小テスト (口頭試問やペーパー試験) の実施、口頭での課題の明示などが影響した可能性が考えられる。今後さらに維持発展させていくために、科目担当教員がアクティブラーニング等の手法を学習して応用し、実践、修正することが求められると考える。

令和 7 年度に実施された科目のうち「授業に対する評価」の平均得点が、4.0 未満を示した科目はなく、かつ PT 科目と OT 科目では 4.5 点以上を示した (表 2)。また、1 年生では OT 科目が、2 年生では PT 科目と OT 科目が、3 年生では共通科目、PT 科目、OT 科目が 4.5 点以上を示した (表 3)。これらの科目では、令和 6 年度から令和 7 年度にかけて、平均得点がおよそ 0.16 点 (およそ 5%) の向上が見られた (表 3)。

この結果は、科目担当教員が授業の改善活動を維持し、かつ更なる改善活動が実施されている事を示していると考えられる。科目担当教員が説明や用いる教材、授業の内容、シラバスに明示される事前情報と実際の齟齬、到達度の明確さ、試験の難易度、演習や課題の工夫等について、昨年度との比較から課題を洗い出し改善策の立案と実施、結果の振り返りを行って、年々修正を行った結果、高い水準で推移していると考えられる。今後も持続的に発展させるための活動を組織と個人で行っていく必要があると考えられる。

表1：授業評価アンケート

分類	問い番号	質問項目
学生の姿勢	問1	あなたは予習をして授業に臨みましたか。
	問2	あなたは復習をして授業に臨みましたか。
	問3	あなたは授業のマナーを守って受講しましたか。
	問4	あなたは意欲的に質問や発言をしようとしたか。
	問5	あなたは自身の授業態度を総合的にみて良かったですか。
授業に対する評価	問6	教員の説明はわかりやすかった。
	問7	授業内容は理解できるレベルであった。
	問8	教員の話し方は聞き取りやすかった。
	問9	教員はビデオ、スライド、プリントや板書などは適切であった。
	問10	教員は準備を十分にし熱意をもって授業を進めた。
	問11	授業内容は学習するに見合った量であった。
	問12	教員は学生の反応や意見を受け入れた。
	問13	授業の要点や議論が明確であった。
	問14	学生便覧のシラバス(授業内容)は参考になった。
	問15	授業内容を理解できた。
	問16	教員は1回ごとの授業に目的をはっきり示した。
	問17	この科目の基礎的な知識技術が身に付いた。
	問18	興味関心を覚える授業であった。
	問19	教員は授業の最初に科目全体の到達度を説明した
	問20	この授業は総合的にみて良かった。